



注典餘師

詩經

四

口 11
2047
27



2047
27

小雅二

鹿鳴之什二之一

鹿鳴三章

詩經卷之四

小雅二

名風と云ふ雅と云ふ體の異なり故の
天子諸侯の會朝祭祀等を用ゝ樂歌
正しく直よその事と云ふのべり大雅の
天子諸侯の會朝祭祀等を用ゝ樂歌
時を用ゝ樂歌なり

○鹿鳴之什二之一

國風の如く一ツク
國風の如く一ツク
十篇の詩と一巻とす
華等と名と云ふと周南召南と云ふ
同ト較法よ計人と別して一組と爲す
什と云ふの例と以て名づけたり

鹿鳴三章

の詩は君より我群の臣
下まこと他國の賓客と
燕亨の時よろしく歌なり後の世り郷人
よもこれを用ゝたり鹿の物を食するは

經典余市

詩經卷之四

四牡五章

四牡駢駢周道倭遲
豈歸を懐こ不
靡我心傷悲す

四牡駢駢駟駟
嗚嗚駟駟駟駟
豈歸を懐こ不
靡我心傷悲す

四牡五章

使臣の都々天子の役事
依て周へさるる文王との

時西國諸侯の伯
苦勞を察しその情と探てると慰勞の
詞より鹿鳴より皇華まで
羣臣と饗食する歌なり

四牡駢駢周道倭遲豈不懷歸王事

靡監我心傷悲

のりり大夫使臣とちりて行なり駢々々々す
すゆく鳥なり周道へ往還の大道なり倭
遅思ふ途の遠くちり此心我古郷へ歸と
のりり事要して監るるは致さるる
傷悲の君の事とさひ又母の事を
よみて心の悲傷
○四牡駢駢嗚嗚駟駟

靡啓處すら不
わら不

翩翩者飛載
下苞栩干集
王事監るる

靡父と將の
皇の不

翩翩者飛載
止る苞杞于集
王事監るる
靡母と將の
皇の不

豈不懷歸王事靡監不遑啓處

駟馬

鬣の毛の黒と馬なり嗚々々々の風俗と
ちりりりり王の事を專一と心なげ中々
啓處て處間なり
○翩翩者飛載
下集于苞栩王事靡監不遑將父○

翩翩者飛載止集于苞杞王事

靡監不遑將母

翩翩者飛載止集于苞杞王事
鳥なり翩翩者飛のりり飛くる鳥なり
苞杞は木なりこの心の鳥類として
靡母と將の地は安堵なり我の
人として父母の膝下はありて孝養とん
更に孝行の鳥としてさげばり心

彼四駱駕載驟駉駉豈歸不懷不人也是用歌作母將來詒

皇皇者華五章

皇皇者華五章
華彼原隰于駉駉

恥しんんとして豎いんずりるくりとあらるりとあり
苞たいく古ちり苞とりいまげまりまりている
ちり○駕彼四駱載驟駉駉豈不懷歸
是用作歌將母來詒
ての意との心の心と推察して臣
駉々うちも父母と歸寧と思ふまりまりている
トさとりりふればと右のぶとく又母の
事と歌と詠とていらうとやと情とく
とて又感ト
はまりり

皇皇者華五章

詩の君の臣と使者の命ト遣さる

歌の樂の

皇皇者華于彼原隰駉駉征夫每懷

駉々征夫每懷
及及と靡と

我馬維駒六轡濡如濡載馳驅周爰咨諏と

我馬維駒六轡絲の如載ら

靡及と靡と
との華の如く我君の光と及との靡
との每と懷とり使者の情を述すとのり
との前と出りとの色と濡とりてとの似
との君の命との馬と驅て馳ゆりとの似
との道とゆりとの念とけて職分の及とぬと
との懷とて君子賢人と逢と何事も周く咨諏
とのいてとの委曲と諏詢

我馬維駒六轡如濡載馳驅周爰

咨諏我大夫の車の馬二歳の駒六轡と濡と

○我馬維駒六

兄弟闋于牆外其務每有良朋有烝也戎無

喪亂既平既安且寧兄弟有與錐不

兄弟闋于牆外其務每有良朋有烝也戎無

也無戎

兄弟闋于牆外御其務每有良朋烝

也無戎

喪亂既平既安且寧兄弟有與錐不

安且寧雖有兄弟不如友生

情既和且寧

兄弟既具和樂且孺

妻子好合如鼓瑟琴兄弟既翕和樂且湛

爾之室家宜爾之妻孥

爾之室家宜爾之妻孥

兄弟既翕和樂且湛

妻子好合如鼓瑟琴

兄弟既具和樂且孺

妻子好合如鼓瑟琴

兄弟既翕和樂且湛

爾之室家宜爾之妻孥

兄弟既翕和樂且湛

妻子好合如鼓瑟琴

兄弟既翕和樂且湛

爾之室家宜爾之妻孥

兄弟既翕和樂且湛

妻子好合如鼓瑟琴

兄弟既翕和樂且湛

樂是究其是
圖其宜其然
乎

伐木三章

木と伐と丁丁
鳥の鳴と
嚶嚶と
幽谷
喬木
遷る
嚶嚶と
其
求
鳴(笑)其友と求
相(笑)猶友と
求し聲知人

是圖其然乎

父母の教てがと竭
ふすまもなき
危と兄弟い
つちかふてして室家
の宜と
兄弟の
間を
然るに
然るに
然るに

伐木三章

朋友親族故旧と酒宴
するの樂歌

伐木丁丁鳥鳴嚶嚶出自幽谷遷于

喬木嚶其鳴矣求其友聲相彼鳥矣

猶求友聲矧伊人矣不求友生神之

聽之終和且平

山中の光景とつひ
と推者等のおと伐とる聲

の山に餘詩の
嚶鳴ふやの愛す
幽谷間より出たり

伊人(笑)友生
と求ぬ不らん
神之之と聽や終
み和して且平
かん

て喬木標ふ遷る友と
さし鳥とる友と求る
や伊人あて朋友故旧
らるるも覺むとる
の心
神明も聽あて
終て和合して

木と伐と許許
酒と醜て

伐木許許醜酒有與既有肥稊以速

莫(笑)有既
肥稊有て以

諸父寧適不來微我弗顧於粲酒埽

寧通(笑)來不
微於粲酒

陳饋八簋既有肥牡以速諸舅寧適

不來微我有咎

許々の聲とて多
許と伐と之と引とる

諸父(笑)異姓
年高人と諸舅
酒と醜とて莫

招請とるの賓客
同姓とて年高
諸父とる異姓
年高人と諸舅
酒と醜とて莫

諸父(笑)異姓
年高人と諸舅
酒と醜とて莫

諸父(笑)異姓
年高人と諸舅
酒と醜とて莫

諸父(笑)異姓
年高人と諸舅
酒と醜とて莫

諸父(笑)異姓
年高人と諸舅
酒と醜とて莫

諸父(笑)異姓
年高人と諸舅
酒と醜とて莫

諸父(笑)異姓
年高人と諸舅
酒と醜とて莫

と速く寧ろ痛
来不ども我を咎
有とするは微
れ

木と阪千伐酒
醜で行らる有
豆踐らる有
兄弟遠く魚民
之失徳乾餼以
て行つ酒有
我の清酒無
我の酤坎々
し我の鼓
ち躡々として我
の舞我暇も追

とつ辨の肉つり饋はりやうとるはるのより
蓋の飯とる器とのりりハる數のさる
つりり壯いひつ下のとんりり繁らんやきこ
もて水と酒と掃除のさけりりたりとく
て心と盡て人々と速といひも適さるぬも
るりり然も我中々薄情とさる人とする
とつりり我厚く顧て酒宴とゆりり
咄とつりも我酒宴とゆりりけす客と待るの
咄あるとつりり ○伐木于阪醜酒有行邊
豆有踐兄弟無遠民之失徳乾餼以
行有酒清我無酒酤我坎坎鼓我躡
躡舞我追我暇美飲此清美
中木と阪
伐

て美此清と飲
美

天保六章

天爾と保定
て亦孔と之

踐て交義つらと兄弟同様の人かいつんも遠
鯨らつたりて遊とつりり實は民の交情
出るとつりりはる乾餼をどのがらと食物
よてもかどつりり行届るより人の愆とる
とつりり手傳の人々へつりりつるやうに我
よつりり酒と清くんべつりり我の酤
さるべつりり又我とるに鼓と坎々どりり舞躡々
業暇つりの日と朋友知音の人とつりり我の家
の清酒と以て遊與ふるまひと
たのしいと

天保六章

以下の詩五首とらる
て臣下と燕饗め人の臥下もさるの
歌とつりり君と視したてまらる

天保定爾亦孔之固俾爾單厚何福

固爾何の福

不除俾爾多益以莫不度

多益る俾

報めいて再の祿と保し定まのみるす

天爾と保定

○天保定爾俾爾戩

不與天の百

穀罄無不宜受天百祿降爾遐福維

福と降して維

日不足

天爾と保定

○天保定

莫山の如く阜

爾以莫不興如山如阜如岡如陵如

川之方至以莫不增

川之方至以莫不增

吉蠲為

○吉蠲為

禴祠烝嘗公先

禴是用孝享禴祠烝嘗于公先王君

曰下爾萬壽無疆

曰下爾萬壽無疆

王于君曰

○吉蠲為

禴祠烝嘗公先

禴是用孝享禴祠烝嘗于公先王君

秋と嘗冬と烝

禴祠烝嘗公先

今我来思雨雪霏霏
行道遲遲載渴載飢我心傷悲
莫知

出車六章

出車六章

軍兵も初め戦場の苦勞と

往矣楊柳依依今我来思雨雪霏霏
行道遲遲載渴載飢我心傷悲莫知
我哀狄地は逗留の中
て今のの地へ街をどろり昔とれた古里に在
り美々く依々としてそのなごり今
の霏々としてすれど万里の行道
るれが往来も遅々たり始終のえんと
はりいつくれば心ぞ傷悲せんふんば
大將の士卒の艱苦とを聞知るる人
は我哀を知らぬの莫とてよの無知ん
らうた

我我車と出と
彼牧于天子
の所自我来
と謂之彼僕夫
と召で之載
と謂王車難
多維其棘矣

我我車と出と
彼郊于此旄
と設け彼旌

我出我車于彼牧矣自天子所謂我
來矣召彼僕夫謂之載矣王事多難
維其棘矣
嚴命とかりり我の天子の
戒めり又車を上げて僕夫と召て
戒めり又車を上げて僕夫と召て
戒めり又車を上げて僕夫と召て
戒めり又車を上げて僕夫と召て
忠と尽すのふり人々王命の重
我出我車于彼郊矣設此旄夫建彼

嘒々々々草蟲
趨々々々阜螽
未ど君子と見
ど憂心忡々
り既よ君子と
見ば我心則ち
降ん赫々々々
南仲薄々西戎
と伐

春日遅々々々
卉木萋々々々
倉庚喈々々々
采芣苢々々々々

訊と執醜と獲
て薄々言よ還
歸を赫々々々
南仲獵狁于夷
夷

杖杜四章

經典餘帛

嘒嘒草蟲趨趨阜螽未見君子憂心
忡忡既見君子我心則降赫赫南仲
薄伐西戎
○春日遅遅卉木
萋萋倉庚喈喈采芣苢
執訊獲醜

薄言還歸赫赫南仲獵狁于夷

のたりふ 春景氷とら此ちりこのとれ
生獲と引ぐてくうりさぬちり春の日
りも遅々々々 卉木も萋々々々
くも又いふとらりるる倉庚の喈々々々
藪と彩人々々も 朝敵の訊
と執てその外とらと醜多とらと獲て
薄言すれまとらとらと還歸
く夷滅たらりて大將南仲の名いひく
らよ赫々々々

杖杜四章

戰役よ苦勞して歸
諸士とやぐさめ終る
ふ誠たりちびよそのさすそと妻の
うとやうくふさひつんちとて

詩經卷之四

杖之杜有皖其
其實有王事
監之繼嗣
日陽止
傷止
征夫
遑止

杖之杜有其葉
萋々王事
監之繼嗣
日陽止
傷止
征夫
遑止

有杖之杜有皖其實王事靡盬繼嗣
我日日月陽止女心傷止征夫遑止

杖杜の實ハ秋の間に皖その実の
妻が夫の帰るの間に皖その実の
時節よんで勤監しぬが少く夜と日
も終るまでくもくや月日と
ども終るまでくもくや月日と
づきやど娘の心の傷
しりしん人君の臣下の心と

○有杖之杜其葉萋々王事靡
盬我心傷悲卉木萋々女心悲止征
夫歸止

歸人止

彼北山言采其杞
王事監之
靡我父母憂
檀車幘々々
四牡瘡々々
征夫遠々々

載之匪來
匪之憂
孔之疾
期之逝
至之不
而多恤

○陟彼北山言采其杞王事靡
盬我父母檀車幘幘四牡瘡瘡征
夫不遠

夫不遠
程も遠く
○匪載匪來憂心孔
疾期逝不至而多為恤卜筮偕止會

と為ト筮借ト
ナ^止會言言近
①征夫邇^止
②止

言近止征夫邇止

歸來も用物などいづも載物の車も匪
の歸來も用物などいづも載物の車も匪
の歸來も用物などいづも載物の車も匪
の歸來も用物などいづも載物の車も匪
の歸來も用物などいづも載物の車も匪
の歸來も用物などいづも載物の車も匪
の歸來も用物などいづも載物の車も匪
の歸來も用物などいづも載物の車も匪
の歸來も用物などいづも載物の車も匪
の歸來も用物などいづも載物の車も匪

南陔

○南陔

南陔の詩なりまれば笛を
吹てその詠なり古の詩経
の代の
火は焚てまらぶとらよ

白華之什二之二

○白華之什二之二

白華

白華

華黍

魚麗六章

魚麗六章

宴饗の時酒有盛
然よとらり

魚麗于罟鱮魚君子有酒旨且多

魚麗于罟鱮魚君子有酒旨且多
且多

魚留于麗魴鯉
君子酒有多且
旨

魚留于麗鯉鯉
君子酒有旨且
有

物其多矣維其
嘉矣

物其旨矣維其
其借矣

物其有矣維其
時矣

南有嘉魚四章

南有嘉魚有丞
然君子酒有嘉
賓式以樂

魚留于麗魴鯉。君子有酒多且旨。○
魚留于麗鯉鯉。君子有酒有旨且有。

魚麗于留魴鯉。君子有酒多且旨。

物其多矣。維其嘉矣。

物其旨矣。維其借矣。○物其有矣。

維其時矣。

南有嘉魚四章。有德の君子ハ

南有嘉魚。然君子酒有嘉賓。式以樂。

南有嘉魚。有丞。然君子酒有嘉賓。式以樂。

魚留于麗魴鯉。君子有酒多且旨。○

魚留于麗鯉鯉。君子有酒有旨且有。物其多矣。維其嘉矣。物其旨矣。維其借矣。○物其有矣。維其時矣。南有嘉魚四章。有德の君子ハ。南有嘉魚。然君子酒有嘉賓。式以樂。

南有嘉魚有燕然
 然君子酒有嘉賓式以燕
 南有嘉魚有燕然
 然君子酒有嘉賓式以燕
 南有嘉魚有燕然
 然君子酒有嘉賓式以燕
 南有嘉魚有燕然
 然君子酒有嘉賓式以燕

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

南有嘉魚。燕然汕汕。君子有酒。嘉賓式燕以行。

由庚
 崇丘
 由儀
 南山有臺五章
 南山有臺。北山有萊。樂只君子。邦家之基。樂只君子。萬壽無期。

由庚 今の三篇の笙の詩なり

崇丘 今の三篇の笙の詩なり

由儀 今の三篇の笙の詩なり

南山有臺五章 賢人を得るといふ

南山有臺。北山有萊。樂只君子。邦家之基。樂只君子。萬壽無期。

南山有臺。北山有萊。樂只君子。邦家之基。樂只君子。萬壽無期。

南山有臺。北山有萊。樂只君子。邦家之基。樂只君子。萬壽無期。

南山有臺。北山有萊。樂只君子。邦家之基。樂只君子。萬壽無期。

南山有桑有北
山有楊有樂只
の君子邦家之
光樂子の君子
萬壽彊無

南山有杞有北
山有李有樂只
の君子民之父
母樂只の君子
德音已不

南山有栲有北
山有桤有樂只
の君子遐不眉

壽考不樂只
の君子德音是
茂

南山有枸有北
山有桤有樂只
の君子遐不黃
考不樂只
の君子爾の後
と保艾

蓼蕭四章

南山有桑北山有楊樂只君子邦家之幸福と治る基なり万年の期なる

南山有杞北山有李樂只君子民之父母樂只君子德音不已

南山有栲北山有桤樂只君子德音是茂

南山有枸北山有桤樂只君子德音是茂

南山有桑北山有楊樂只君子邦家之光樂只君子萬壽彊無

南山有桑北山有楊樂只君子邦家之光樂只君子萬壽彊無
南山有杞北山有李樂只君子民之父母樂只君子德音不已
南山有栲北山有桤樂只君子德音是茂
南山有枸北山有桤樂只君子德音是茂
有桤樂只君子遐不黃考樂只君子
保艾爾後
蓼蕭四章
諸侯天子來朝乃天子酒寡と
の詩とらるる惠と

夢露清兮既見君子
我心焉今燕
是以笑語今
是以譽有今
處今

夢露瀼瀼今
既見君子今
龍為光今
不壽考今
不忘今

夢露泥今
既見君子今
豈弟今
宜弟今
德壽今
豈今

夢露濃今
既見君子今
和鸞今
萬福今
攸今

夢彼蕭斯。零露漙漙。既見君子。我心
寫兮。燕笑語兮。是以有譽處兮。

夢露瀼瀼。既見君子。為龍為光。其
德不爽。壽考不忘。

蕭斯。零露泥泥。既見君子。孔燕且弟。
宜兄宜弟。令德壽且。

夢彼蕭斯。零露漙漙。既見君子。我心
寫兮。燕笑語兮。是以有譽處兮。

夢露瀼瀼。既見君子。為龍為光。其
德不爽。壽考不忘。

蕭斯。零露泥泥。既見君子。孔燕且弟。
宜兄宜弟。令德壽且。

夢露濃。既見君子。和鸞。萬福攸。

顯允の君子令
徳ち不と莫

其桐其椅其實
離々君子令儀
不と莫

形弓之什二之三

形弓三章

棘顯允君子莫不令徳

棘の持たるるの

如の諸侯がいづれもその允の顯見は
どの君子もその徳を善徳と抱く

其桐其椅其實離々君子莫不

令儀

桐も椅も大氏ちくくううる
儀の實のなる下

人の言語容貌の規矩ありと
儀の諸侯の外の上となる

形弓之什二之三

形弓三章

戦功のうらうら
場の莫れうらうら

天子より西の寡とありけ形弓矢と
にきりてその目樂とありけ

形弓昭兮受言藏之我有嘉賓中心

既設一朝饗之

形弓昭兮受て
言よ之と藏む
我嘉賓有中
心之と既鐘鼓
既設けて一
朝之と饗を

戦功と賞にたるなり
形弓の赤矢ともは邦領して言
之と受藏いへのにうらうら

賁の諸侯の對し心中の嘉
賓の賜物と既言と

の賜物と既言と
早々とりよに

早々とりよに
朝と一且と

心百朋の宝と錫が如しとあり貝一對と

汎汎揚舟載沈載浮既見君子我心則休

汎汎揚舟載沈載浮既見君子我心則休
汎汎揚舟の浮沈して定るれが如し
君子と見ると得る心も休むに
揚舟の心も休むに

六月六章

六月六章

同の宣王のとき獵狁と
命して伐めり勝て帰国と吉甫に
之と贊し詞あり

六月摟摟戎車既飭

六月摟摟戎車既飭四牡騤騤載是

四牡騤騤載是常服
狁孔熾我皇于出征
我皇于出征

常服獵狁孔熾我皇于出征

以匡王國

六月の炎天暑気のなりや
以匡王國
四の牡騤騤も騤がよとん
用の常上服す物と載て出陣
盛やちがゆへは是用急邊く玉の軍
兵とて出で征伐とて王の軍
國都と匡の民の心と

比物四驪閑之維則維此六月既成

我服我服既成于三十里王于出征

戎車既安如輕如軒四牡既信既信且閑薄伐玁狁至于太原文武吉甫萬

○戎

戎車既安如輕如軒四牡既信既信且閑薄伐玁狁至于太原文武吉甫萬邦憲

戎車既安如輕如軒四牡既信既信且閑薄伐玁狁至于太原文武吉甫萬邦憲

吉甫燕喜既多受祉來歸我御諸友魚鼈膾鯉

吉甫燕喜既多受祉來歸我御諸友魚鼈膾鯉侯誰在矣張仲孝友

侯誰在矣張仲孝友

侯誰在矣張仲孝友

采芑四章

采芑四章

宣王之伐玁狁也方叔與之戰于大采芑也

薄言采芑于彼新田于此蓄畝于方叔泣止其車三千師于之試方叔率止其四驥乘其四驥翼々路車奭々魚服鈎膺脩革

薄言采芑于彼新田于此蓄畝于方叔泣止其車三千師于之試方叔率止其四驥乘其四驥翼々路車奭々魚服鈎膺脩革
薄言采芑。于彼新田。于此蓄畝。于方叔泣止其車三千。師于之試。方叔率止其四驥。乘其四驥。翼々路車。奭々魚服。鈎膺脩革。
蓄畝。于方叔泣止其車三千。師于之試。方叔率止其四驥。乘其四驥。翼々路車。奭々魚服。鈎膺脩革。
師于之試。方叔率止其四驥。乘其四驥。翼々路車。奭々魚服。鈎膺脩革。
乘其四驥。翼々路車。奭々魚服。鈎膺脩革。
翼々路車。奭々魚服。鈎膺脩革。
路車。奭々魚服。鈎膺脩革。
奭々魚服。鈎膺脩革。
魚服。鈎膺脩革。
鈎膺脩革。

薄言采芑于彼新田于此蓄畝于方叔泣止其車三千師于之試方叔率止其四驥乘其四驥翼々路車奭々魚服鈎膺脩革

薄言采芑于彼新田于此蓄畝于方叔泣止其車三千師于之試方叔率止其四驥乘其四驥翼々路車奭々魚服鈎膺脩革
薄言采芑。于彼新田。于此蓄畝。于方叔泣止其車三千。師于之試。方叔率止其四驥。乘其四驥。翼々路車。奭々魚服。鈎膺脩革。
蓄畝。于方叔泣止其車三千。師于之試。方叔率止其四驥。乘其四驥。翼々路車。奭々魚服。鈎膺脩革。
師于之試。方叔率止其四驥。乘其四驥。翼々路車。奭々魚服。鈎膺脩革。
乘其四驥。翼々路車。奭々魚服。鈎膺脩革。
翼々路車。奭々魚服。鈎膺脩革。
路車。奭々魚服。鈎膺脩革。
奭々魚服。鈎膺脩革。
魚服。鈎膺脩革。
鈎膺脩革。

葱珩有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有

葱珩有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有

葱珩有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有

葱珩有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有

葱珩有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有

葱珩有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有

葱珩有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有

葱珩有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有
葱珩。有

如顯允... 方叔獵狁... 伐蠻荆來威

允方叔征伐獵狁蠻荆來威

作法... 唐土の大邦... 將方叔... 執事... 征伐... 服... 來朝... 諸侯... 遠近... 邑... 一... 二...

車攻八章

車攻八章

諸侯... 遠近... 邑... 一... 二... 器械... 田...

我車既攻... 我馬既同... 四牡龐龐... 駕言東徂

我車既攻我馬既同四牡龐龐駕言

徂東

車堅攻... 乘馬... 多... 同... 無...

田車既好... 四牡... 駕言... 行狩

孔阜東有甫草駕言行狩

田の車も... のひて

之子于苗... 選徒... 翼翼... 建旒... 設

之子于苗選徒翼翼建旒設

旄と建旄と設
獸と教于搏

彼四牡を駕せ
四牡奕々として
赤芾金鳥會
同繹ちと有

決拾既を飲弓
矢既を調射
夫既を同我と
助けて柴と舉

旄搏獸于教

將いづれも于て苗とつこえんを撰よらば
徒輩置々しく旄旄のものと建
施て教の地まで出張し
○駕彼四牡

四牡奕奕赤芾金鳥會同有繹

朝觀會同とつこえんは是れ謙侯との
垂て膝とひひと帯とつ赤と以ていら
どる又金と以て鳥とつれやうり時

とつこえんは是れ謙侯との
朝觀會同とつこえんは是れ謙侯との

○決拾既飲弓矢既調射夫

既同助我舉柴

拾とひひ決とつこえんの品
依て引矢とつこえんの射の夫とつこえんの同

○四黄既駕兩驂不倚不失

其馳全矣如破

○蕭蕭馬鳴悠悠旆旌

徒御不驚大庖不盈

徒御不驚大庖不盈

徒御不驚大庖不盈

徒御不驚大庖不盈

蕭々々々馬鳴
悠々々々旆旌
徒御不驚大庖不盈

四黄既を駕し
兩驂倚らば不
其馳を失は
不矢と舎と
破る如

蕭蕭馬鳴悠悠旆旌
徒御不驚大庖不盈

徒御不驚大庖不盈
徒御不驚大庖不盈

徒御不驚大庖不盈
徒御不驚大庖不盈

徒御不驚大庖不盈
徒御不驚大庖不盈

之子于征聞
有聲魚允
也大成

君の獲鹿盈りてかくく
○之子于征
有聞魚聲允矣君子展也大成
法君の
令

吉日四章

吉日四章

宣王の詩とれ
田獵とす

吉日維戊既
伯既禱田車
既好四牡孔
阜升彼大阜
醜と從

吉日維戊既禱田車既好四牡
孔阜升彼大阜從其羣醜
吉日とす
日とす
田獵とす
神と東方七宿の内よ

吉日庚午既
我馬と差獸之
同所鹿鹿麋
麋漆沮之
從天子之所
也

吉日庚午既差我馬獸之所同麋鹿
麋麋漆沮之從天子之所
庚午とす
○

彼中原と瞻
其祁孔有
儻々侯々
有儻或羣或
友悉く左右と
率て以て天子
と燕す

瞻彼中原其祁孔有儻
儻侯或羣或友悉率左右以燕天
子
○

詩經餘師

詩經卷之四

三十一

既張我弓と張
既我矢と挾
彼小豨を發して此
大兕と登を以て
賓客を御し且
以て醴と酌

鴻鴈三章

鴻鴈于飛肅肅
肅肅其羽之
于野爰及矜人
及哀此鰥寡

○既張我弓既挾我矢

發彼小豨殪此大兕以御賓客且以

酌醴兕と張矢と挾て此豨と射殪など

賓客天子の酒を

○醴大酒名なり

鴻鴈三章

周の都成王の乱より

人々を哀れむ

鴻鴈于飛肅肅其羽之子于征劬勞

于野爰及矜人哀此鰥寡

矜人及哀此鰥寡

鴻鴈于飛中澤于集
于垣百堵皆作則劬勞
其究安宅

て羽肅々飛つるのやうなことを引いて
りて民ども世の難とのげんげうり
たつちあつたに天子より諸有司をたつ
かゝ野外に于てその民の爲に心を劬
勞したすけとらふよりの爰及矜人
と及ぶまの中にも鰥寡の哀さるる
や鰥寡の年老て妻を失はると寡と
とあるて夫を失はると寡とあるて
あきまの母を失はると寡とあるて
身をも失はると寡とあるて

○鴻鴈于飛集于中澤

之子于垣百堵皆作雖則劬勞其究

安宅中澤の中をり上心の

艾庭燎晰晰君子至止
鸞聲噦々々

夜如何其夜晨
郷庭燎輝と
止言よ其旂と
観

汚水三章

汚彼流水
海于朝宗と
航

夜未艾庭燎晰晰君子至止鸞聲噦

噦夜の未艾がらうとまを夜残るるとり

夜如何其夜郷晨庭燎有輝君子至

止言觀其旂晨よ郷と輝とをさく

汚水三章世の乱んとて恐れい

汚彼流水朝宗于海航彼飛集載飛

載止嗟我兄弟邦人諸友莫肯念亂

誰無父母朝宗と大なる

湯湯航彼飛集載飛載揚念彼不蹟

汚彼流水其流湯々航と飛集と揚

航彼飛集載飛載揚念彼不蹟

載止嗟我兄弟邦人諸友莫肯念亂

誰無父母朝宗と大なる

湯湯航彼飛集載飛載揚念彼不蹟

汚彼流水其流湯々航と飛集と揚

航彼飛集載飛載揚念彼不蹟

載止嗟我兄弟邦人諸友莫肯念亂

誰無父母朝宗と大なる

湯湯航彼飛集載飛載揚念彼不蹟

彼不蹟と念て
載り起載り行
心之憂美
不可不
弭忘

孰より彼飛隼
彼中陵に率ふ
民之訛言寧之
を懲ると莫我
友敬する美讓
言其興人

載起載行心之憂矣不可弭忘

いづるやうに水も湯も如く
世の乱も道も蹟不して理も逆もいづるやうに
行むるも心も安堵なく載り起載り
○ 孰彼飛隼率彼中陵民之

訛言寧莫之懲我友敬美讓言其興

又より彼飛隼率彼中陵民之
言の世と乱の如く我友敬する美讓言其興
非ととぬ訛言もかろく興とて

鶴鳴二章

鶴九臯于鳴聲
野于聞魚潛
淵或在或
于在彼之園
樂其愛之樹檀
有其下維
山之石以錯
為可

鶴鳴二章

君子の下人の

鶴鳴于九臯聲聞于野魚潛在淵或

在于渚樂彼之園爰有樹檀其下維

擇他山之石可以為錯

その声清く高く九臯は鳴きその遠
聲野より高く九臯は鳴きその遠
く離るるの必らず離るるの心を依り
徳の淵に必ず離るるの心を依り
て時よあそびて道理とれくの異なる

鶴九臯于鳴聲
 天于聞魚渚于
 在或の潛で淵
 在彼の之園と
 樂む爰に樹檀
 有其下維穀他
 山之石以て玉
 と攻可

よれと彼の園と樹檀のしいで
 下よ悪くささの穽つるらるる
 ぞこの心の君子徳とわど
 他山の石は賢者の国と
 錯礪とたがひて必と
 鶴鳴于九臯聲聞于天魚在于
 渚或潛在淵樂彼之園爰有樹檀其
 下維穀他山之石可以攻玉

詩經卷之四終

の天よとつりてささゆらちり
 名のらとつり悪ホちりいづれも上の心と和
 るる攻む他の山は礪砥と玉と
 とがきに攻むに堪るる心のちり

天の聞と
 鶴の聲と

天の聞と
 鶴の聲と

天の聞と
 鶴の聲と

天の聞と
 鶴の聲と

天の聞と
 鶴の聲と

天の聞と
 鶴の聲と

